

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 にほんごの会 くれよん

1. 事業の趣旨・目的

- ① 過年度実施した【「教える」から「ともに学ぶ」へ】の受講者の団体が、今後も「ともに学ぶ」実践活動を広く、継続的に行えるよう、隣接地区と各人の所属団体内に呼応する人材を育成する。
- ② 受講者は具体的に考え、話し合い、実践していく過程を共有し、過年度のメンバーが引き続き運営委員となることで、前年度作成した研修モデルの改善を効率的に行う。
- ③ 前年度受講者の活動現場での聞き取り調査などから、とくに活動経験の短いボランティアにとって、入門期の外国人参加者と対話を成立させることが難しいということがわかった。このため今年度は講座の受講対象者を経験年数2年程度とし、また講座の中に入門期の外国人参加者を対象とした内容を組み込んだ。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
4月21日	目黒区男女 平等・共同参 画センター	荒明美奈子 石原弘子 佐々木倫子 茂木真理 吉田聖子	講座について	・目的の確認 ・講座対象者の確認 ・講座の内容、日程、講師 などについて
5月26日	目黒区男女 平等・共同参 画センター	荒明美奈子 石原弘子 佐々木倫子 茂木真理 吉田聖子	講座開始準備	・参加申し込み状況の確認 ・講座初日までの仕事の分 担 ・講座スケジュール、会場 及び書式、記入方法の確 認
12月1日	目黒区男女 平等・共同参 画センター	荒明美奈子 石原弘子 佐々木倫子	実施経過の確認と今 後の計画の見直し	・連続欠席者の扱いについ て ・実施講座の振り返り

		茂木真理 吉田聖子		・実施経過の共有と今後の実施方法の調整
2月23日	目黒区男女 平等・共同参 画センター	荒明美奈子 飯塚 睦 石原弘子 茂木真理 吉田聖子	会計報告および 委託業務完了報告書	・会計の確認 ・全講座の振返り ・受講者への送付資料について ・委託業務完了報告書等の作成手順と分担の確認
3月8日	目黒区男女 平等・共同参 画センター	荒明美奈子 飯塚 睦 石原弘子 佐々木倫子 茂木真理 吉田聖子	文化庁提出書類	・提出書類各項目の見直し、修正 ・提出までの予定の確認

【写真】



3. 講座の内容について

- (1) 講座名 にほんごボランティア みんなでつくる「はじめての日本語」 実践的研修講座
- (2) 開催場所
ア 講義 中目黒スクエア、八雲住区センター、イ 実習 各受講者活動教室
- (3) 学習目標

本研修では、活動経験の短いボランティアが「ともに学ぶ」型の活動を自分で意識的に計画し、実行する力を身につけることを目指す。とくに共同活動が難しいとされる入門期の外国人参加者と対話を成立させる方法を身につけることを目標とする。最終的には講座終了後、各自の活動母体に帰ってから①受講経験を自身の活動に生かし、②その様子を仲間に伝えることができることを目指す。そのため自分自身の活動を記録し、課題を発見し、スモールチェンジを行い、その結果を振り返る。

また1. 事業の趣旨・目的②に記したように、運営委員はメーリングリストを使用して全ての情報を共有しながら、各自の所属団体でもこのプログラムに基づいた研修を実

施し、その結果とフィードバックを持ち寄り、より汎用性のある研修モデルを作成すること
を目標とする。

(4) 使用した教材・リソース

講師作成資料、『外国人と対話しよう！ にほんごボランティア手帖』、
『外国人と対話しよう！ にほんごボランティア手帖 すぐに使える活動ネタ集』

(5) 受講者の募集方法

目黒区国際交流協会はじめ区内日本語教室にチラシ手交、運営委員所属団体等で説明会とチラシ手交、東京都国際交流協会掲示板に掲載、東京日本語ボランティアネットワーク掲示板に掲載、東京日本語ボランティアネットワークニュースレター送付時にチラシを同封、新宿日本語ネットワークに掲載、隣接区の日本語教室にメール等でチラシ送付

(6) 受講者の総数 24 人

(出身・国籍別内訳 24 人 日本)

(7) 開催時間数(回数) 41 時間 (全 12 回)

講義 35 時間 (9 回)、実習 6 時間 (3 回)

(8) 参加対象者の要件

- ◇ 現在、東京都内で、地域日本語教室のボランティアとして活動していて、おおむね2年程度の方
- ◇ 講座からの学びを生かした実践を5時間以上行い、報告会に出席できる方
- ◇ 全回参加が原則ですが、2、3人でチームをつくり、交代での受講も可能

(9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
①	6月18日 10:00～15:00	4時間	20人	今外国人にとって 本当に必要なことは何か 講座オリエンテーション にほんごボランティアにできること	東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター 吉田 聖子
②	6月25日 10:00～15:00	4時間	24人	対話を中心とした活動 ① 「対話中心の活動」とは	東海日本語ネットワーク 米勢 治子
③	8月27日 10:00～12:00	2時間	12人	対話活動を記録するには 活動記録の書き方	吉田 聖子
④	10月1日	4時間	20人	対話を中心とした活動 ②	東海日本語ネットワーク

	10:00～15:00			初心者で行う 「対話中心の活動」のつくり方	ク 米勢 治子
⑤	10月15日 10:00～15:00	4時間	21人	明日につながる活動 —「振り返り」から「スモール チェンジ」へ—	学習院大学 金田 智子
⑥	11月5日 10:00～15:00	4時間	21人	日本語の仕組みについて— Ⅰ 言葉の仕組み・きまり	拓殖大学 友松 悦子
⑦	11月19日 10:00～15:00	4時間	23人	日本語の仕組みについて— Ⅱ 円滑なやり取りのための 言い方	拓殖大学 友松 悦子
	11月19日 15:00～16:00	1時間		実践活動計画を考える スモールチェンジを実行する には、記録のポイント	吉田 聖子
⑧	1月14日 10:00～15:00	4時間	18人	ともに学ぶ 全講座の総復習 実践記録の共有と発表の準備	吉田 聖子
⑨	2月4日 10:00～15:00	4時間	17人	わたしの学んだこと 発表と講座の振り返り 「今、外国人にとって本当に 必要なことはなにか」	吉田 聖子
⑩	10月	2時間	10人	講座内容を活かしたスモール チェンジを行う実践活動	
⑪	11月	2時間	23人	講座内容を活かしたスモール チェンジを行う実践活動	
⑫	12月	2時間	17人	講座内容を活かしたスモール チェンジを行う実践活動	

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

毎回講座終了時に「振り返りシート」の記入を受講生にお願いし、その内容はメーリングリストでの共有を図った。個々人が学んだこと、感じたこと、思ったこと、考えたことを自身で確認するとともに、他の人からの新しい気づきを得ることもできた。

また、最終回には振り返りシートに加え、「この講座を通して気づいたこと、今後の

活動に取り入れていきたいことはどのようなことか」という質問に自由記述で記入してもらい、アンケートに代えた。この結果、「共に学ぶ」「スモールチェンジ」「学習者の心に寄り添う活動」がキーワードとして浮かび上がってきた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・経験の少ないボランティアが自らの活動を振り返り、改良し、実施する過程を経験することで、活動に幅がでてきた。
- ・日本語の仕組みを新しい枠組みで捉えることにより、対話型活動に深みを増すことができた。
- ・ワークショップを行う中で、グループ内はもちろん、他グループの人との交流が進み、地域日本語教室の抱える問題点や運営についての視野が広がった。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・受講した比較的経験の少ないボランティアを、積極的にグループ内の運営メンバーとして活用できるよう、体制の見直しを計る。
- ・より質の高い支援を行うため、自らの活動を記録し、振り返り、考え、スモールチェンジして実施するという循環を習慣化できるよう、さらに参加しなかったボランティアにも広げるような研修を今後も継続し行う。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・本講座運営にあたり、都内各地の地域日本語教室に中心にかかわっている人が協働して新しい研修モデルを作成した。これにより、さまざまな課題が点から線、線から面へとつながり、今後もゆるやかなネットワークを組み連携を保ちつつ、よりよい活動を行う体制ができた。
- ・受講者一人一人が母団体で本事業の報告を行うことで、より広範囲の教室で本研修の趣旨が理解され、上記ネットワークに対し次年度以降の研修の相談が寄せられている。

② 研修後の人材活用

- ・勉強会の企画、運営に積極的にかかわり、グループの質の向上、活性化をはかる。
- ・受講者は今回の研修を通して全員が実践記録と報告を共有した。この経験を活かして、次年度以降互いの勉強会や研修で実践報告を行う

(12) 今後の課題

- ・実践活動に継続的な変化をもたらすためには、新しい知識を学ぶだけでなく、学んだことを自分の活動に取り入れ、実践し、振り返り、スモールチェンジを行うことが必要になる。このスキルを身につけるには研修の中で、「実践、記録、振り返り、スモールチェンジ」をセットで複数回行うことが必要であろう。今後もこの研修モデルの内容を精査し、受講対象者に合わせて、

継続する部分と拡張する部分を見極め、改善する必要がある。受講者が各々の活動現場において無理なく自身の活動のブラッシュアップを行う力を身につけることが望ましい。